

2023 年度

日 本 医 学 会 年 次 報 告

2024 年 2 月 21 日

日 本 医 学 会

目次

1. 日本医学会総会	1
1) 第31回日本医学会総会開催報告	1
2) 「第32回日本医学会総会 2027」の準備	1
2. 日本医学会幹事会	4
3. 日本医学会臨時幹事会	4
4. 日本医学会定例評議員会	4
5. 日本医学会臨時評議員会	4
6. 日本医学会シンポジウム	5
1) 日本医学会シンポジウム	5
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	5
3) 日本医学会シンポジウム記録	5
4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨	6
7. 日本医学会公開フォーラム	6
1) 日本医学会公開フォーラム	6
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	6
3) 日本医学会公開フォーラム記録	7
8. 日本医学会協議会	7
9. 日本医学会正副会長会議	7
10. 日本医学会医学用語管理委員会	7
11. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ	7
12. 不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ	8
13. 用語標記基本指針策定ワーキンググループ	8
14. 日本医学会分科会用語委員会	9
15. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	9
16. 日本医学会加盟検討委員会	10
17. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	10
18. 日本医学会利益相反委員会	11
19. 日本医学会分科会利益相反会議	11
20. 日本医学雑誌編集者組織委員会	12
21. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム	12
22. 研究倫理教育研修会	13
23. 日本医学会総会あり方委員会	13
24. 再生医療等レジストリ協議会	13
25. 移植関係学会合同委員会	13
26. 出生前検査認証制度等運営委員会	14
27. 日本医学会 e-News	14
28. 情報発信	14
29. 会議等の開催数	14

30. その他	……………15
綴じ込み	
日本医学会 e-News No.7	……………16
日本医学会 e-News No.8	……………18

1. 日本医学会総会

1) 第31回日本医学会総会開催報告

第31回日本医学会総会は、春日雅人会頭、宮園浩平・北川昌伸・天谷雅行・栗原敏・新井一・尾崎治夫ら6名の副会頭、門脇孝準備委員長の下、都内13の医科大学・大学医学部、4つのナショナルセンター、そして、東京都医師会の全18の機関が主務機関となり、2023年4月に開催された。メインテーマを「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」とした。

学術集会は、4月21日(金)～23日(日)の3日間、東京国際フォーラムを中心として開催した。各分科会と医師会からのアンケート結果を取り入れながら、5本の柱「ビッグデータがもたらす医学・医療の変革」「革新的医療技術の最前線」「人生100年時代に向けた医学と医療」「持続可能な新しい医療システムと人材育成」「パンデミック・大災害に対抗するイノベーション立国による挑戦」に沿って分野横断的なプログラムを作成し、約80のセッションを企画した。ノーベル賞受賞者や著名な文化人、歯科医師・薬剤師・看護師各会、産業界からの講演、さらに日本医学会総会奨励賞受賞者による講演なども企画した。また、本総会で初めてとなるU40委員会・ダイバーシティ推進委員会企画を行った。医師・医療職者などの有料登録者約2万5千人に、学部学生や一般市民などの登録者を合わせた計約4万人が聴講した。また、WEBでも多くのプログラムを実施し、LIVE配信に加えて、5月～7月にかけてオンデマンド配信も行った。

博覧会はメインテーマを「みんなで健康 みんなの医療 みんなが長寿」として、4月15日(土)～23日(日)まで、東京国際フォーラムを中心とした丸の内・有楽町エリアの屋内外各所にて開催した。また、オンライン博覧会を2022年11月1日(火)～2023年5月31日(水)を会期として実施し、現地参加者とWEBでの参加者をあわせて延べ54万人を超えた。

そしてバーチャル医学史展示は、2月1日(水)～5月31日(水)の期間実施し、さらに日本医学会／日本医学会連合の分科会／加盟学会展示を4月1日(土)～30(日)の間、行幸通り地下ギャラリーにて実施した。

2020年初頭より新型コロナウイルス感染症の影響で開催自体が不透明の中、惜しみなくご協力、ご支援を賜りました会員各位、主務機関、日本医師会ならびに各省庁および宮内庁、都道府県医師会、産業界の皆様、そして開催に携わって下さった全ての方々の多大なるご尽力により、本総会を成功裡に終えることができたことをご報告させていただきます。

なお、2024年2月に本総会の余剰金2千2百万円を日本医学会に寄付した。

2) 「第32回日本医学会総会 2027」の準備

第32回日本医学会総会(2027年)は、大阪で開催することとし、その準備状況としては、2024年1月9日現在、下記が決定している。

① 役員

会頭	澤 芳樹 大阪大学, 大阪警察病院
副会頭	熊ノ郷 淳 大阪大学大学院医学系研究科研究科長・医学部長
	寶金 清博 北海道大学総長
	富永 悌二 東北大学副学長
	松尾 清一 東海国立大学機構機構長

岩井 一宏 京都大学副学長
藤澤 正人 神戸大学学長
赤司 浩一 九州大学大学院医学研究院長・医学部長
越智 光夫 広島大学学長
南學 正臣 東京大学大学院医学系研究科長・医学部長
北川 雄光 慶應義塾常任理事
高井 康之 大阪府医師会長

準備委員長 坂田 泰史 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学教授

顧問 松本 吉郎 日本医師会長
顧問 高橋 英登 日本歯科医師会会長
顧問 高橋 弘枝 日本看護協会会長
顧問 山本 信夫 日本薬剤師会会長
顧問 武田 泰生 日本病院薬剤師会会長
顧問 上本 伸二 滋賀医科大学学長
顧問 夜久 均 京都府立医科大学学長
顧問 河田 則文 大阪公立大学医学部医学研究科長兼医学部長
顧問 細井 裕司 奈良県立医科大学理事長・学長
顧問 宮下 和久 和歌山県立医科大学理事長・学長
顧問 木梨 達雄 関西医科大学学長
顧問 松村 到 近畿大学医学部副学長・学部長
顧問 内山 和久 大阪医科薬科大学医学部長
顧問 鈴木敬一郎 兵庫医科大学学長
顧問 中村 祐輔 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事長
顧問 大津 欣也 国立循環器病研究センター理事長

(予定)

参与 岸本 忠三 大阪大学名誉教授
参与 平野 俊夫 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事長顧問
参与 竹原 徹郎 大阪大学医学部附属病院病院長
参与 神出 計 大阪大学医学部保健学科長
参与 林 美加子 大阪大学歯学部附属病院病院長
参与 遠山 正彌 大阪府立病院機構理事長
参与 森 正樹 東海大学医学部長

(予定)

学術委員会

委員長 石井 優 大阪大学大学院医学系研究科免疫細胞生物学教授

総務委員会

委員長 貴島 晴彦 大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学教授

登録委員会

委員長 土岐祐一郎 大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授

広報委員会

統括 猪原 秀典 大阪大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授

委員長 岡田 誠司 大阪大学大学院医学系研究科整形外科学教授

式典委員会

統括 猪阪 善隆 大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学教授

委員長 日比野 浩 大阪大学大学院医学系研究科統合薬理学教授

財務委員会

委員長 野々村祝夫 大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科学教授

記録委員会

統括 小川 和彦 大阪大学大学院医学系研究科放射線統合医学放射線治療学教授

委員長 武田 理宏 大阪大学大学院医学系研究科医療情報学教授

展示・イベント委員会

統括 富山 憲幸 大阪大学大学院医学系研究科放射線統合医学放射線医学教授

学術展示委員長 宮川 繁 大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科学教授

一般展示委員長 上野 高義 大阪大学大学院医学系研究科保健学科/
看護実践開発科学講座教授

ダイバシティ推進委員会

統括 池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教授

委員長 中島 和江 大阪大学医学部附属病院
中央クオリティマネジメント部教授

幹事長 新谷 康 大阪大学大学院医学系研究科呼吸器外科学教授

準備委員長補佐 久保 盾貴 大阪大学大学院医学系研究科形成外科学教授

②会期(案)

学術講演会: 2027(令和9)年4月23日(金)～25日(日)(予定)

学術展示: 2027(令和9)年4月22日(木)～25日(日)(予定)

一般(市民)展示: 2027(令和9)年3月20日(土)～28日(日)(予定)

③会場(案)

学術講演会・学術展示: 中之島エリア(大阪国際会議場, リーガロイヤルホテル大阪)

一般(市民)展示: うめきたエリア

④メインテーマ

医学のレジリエンス～みらいへの挑戦と貢献～

⑤主務機関

大阪大学医学部, 京都大学医学部, 神戸大学医学部, 北海道大学医学部,
九州大学医学部, 広島大学医学部, 国立循環器病研究センター, 東海大学医学部,
大阪府立病院機構, 大阪府医師会

⑥事務局

第32回日本医学会総会事務局

事務局長 北川 透 大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学/医療法人協和会理事長

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

大阪大学大学院医学系研究科 岸本記念医学史料館(3階)

TEL:06-6875-8181 FAX:06-6875-8180

E-mail: office@isoukai2027-osaka.jp

2. 日本医学会幹事会

第1回日本医学会幹事会を、2024年2月21日(水)にweb開催した。主な議題は、「2023年度日本医学会年次報告」「2024年度日本医学会事業計画」「日本医学会加盟学会」等である。

3. 日本医学会臨時幹事会

6月23日(金)に開催予定であった日本医学会臨時幹事会は時間的制約があったことから、協議事項についてメールにて幹事より事前に了承を得た。主な議題は「日本医学会役員について」「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイドランス 2023」である。

門田守人会長の逝去を受けて9月25日(月)に「日本医学会会長選出方法の協議(10/13)及び会長選出(11/10)のための日本医学会臨時評議員会の開催について」、11月10日(金)に「日本医学会 会長候補者の件」、12月15日(金)に「日本医学会役員について」を議題として、それぞれweb開催した。

4. 日本医学会定例評議員会

第91回日本医学会定例評議員会を、2024年2月21日(水)にweb開催した。主な議題は、「2023年度日本医学会年次報告」「2024年度日本医学会事業計画」「日本医学会加盟学会」「学会の名称変更」「『良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律』に関する提言」等である。

5. 日本医学会臨時評議員会

日本医学会臨時評議員会を6月23日(金)にweb開催した。主な議題は「日本医学会役員について」、「『日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイドランス 2023』案について」である。

門田守人会長の逝去を受けて10月13日(金)に「日本医学会 会長選出方法について」、11月10日(金)に「日本医学会 会長の選出について」を諮り、会長として門脇孝(国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長)先生を、12月15日(金)に「日本医学会 役員の選出について」を諮り、副会長として南学正臣(東京大学大学院医学系研究科教授・腎臓・内分泌内科学)先生、幹事として熊ノ郷淳(大阪大学大学院医学系研究科教授・呼吸器・免疫内科学)先生を選出した。

6. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

本年度は2回開催した。新型コロナウイルス感染症を鑑み第162回は無観客にて講演収録の形態で、第163回は現地開催で、それぞれ開催した。

・第162回日本医学会シンポジウム

テーマ:医学教育の在り方を見直す

開催日:6月3日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂(無観客収録)

組織委員:瀬戸泰之(東京大学大学院医学系研究科消化管外科学教授), 野田泰子(自治医科大学医学部解剖学教授)

参加者数:10名(演者・役員等のみ)

・第163回日本医学会シンポジウム

テーマ:心と脳と体をつなぐ神経免疫

開催日:12月16日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂(現地開催)

組織委員:澤明(ジョンズホプキンス大学医学部, 公衆衛生学部, 附属病院センターディレクター・教授), 高柳広(東京大学大学院医学系研究科免疫学教授)

参加者数:100名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

委員は高柳広(東京大学大学院医学系研究科教授・免疫学), 野田泰子(自治医科大学医学部教授・解剖学), 青木茂樹(順天堂大学医学部教授・放射線医学), 藤尾圭志(東京大学大学院医学系研究科教授・アレルギーリウマチ内科学), 松本守雄(慶応義塾大学医学部教授・整形外科学), 武富紹信(北海道大学大学院医学研究院教授・消化器外科学), 野原理子(東京女子医科大学教授・衛生学公衆衛生学), 東尚弘(東京大学大学院医学系研究科教授・公衆衛生学)の8名で構成されており, シンポジウムの基本方針, テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。今年度は次のとおり開催した。

・第10回日本医学会シンポジウム企画委員会(5月18日)

第163回のテーマ案について検討がなされた。

第163回テーマ:心と脳と体をつなぐ神経免疫

・第11回日本医学会シンポジウム企画委員会(10月19日)

第164回のテーマ案について検討がなされた。

第164回テーマ:がん予防, 医療, 共生の現在とこれから

3) 日本医学会シンポジウム記録

「第162回日本医学会シンポジウム」「第163回日本医学会シンポジウム」の全容を日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」で映像配信した(<https://jams.med.or.jp/>)。

4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨

講演要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。

第 162 回日本医学会シンポジウム「医学教育の在り方を見直す」:第 152 巻 5 号

第 163 回日本医学会シンポジウム「心と脳と体をつなぐ神経免疫」:第 152 巻 11 号

7. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

本年度は 2 回開催した。新型コロナウイルス感染症を鑑み第 33 回は無観客にて講演収録の形態で、第 34 回は現地開催で、それぞれ開催した。

・第 33 回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ:移植医療の現状と課題

開 催 日:6 月 17 日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂(無観客収録)

組織委員:小野稔(東京大学大学院医学系研究科心臓外科学教授),有賀徹(独立行政法人労働者健康安全機構理事長)

参加者数:13 名(演者・役員等のみ)

・第 34 回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ:女性医療を取り巻く課題

開 催 日:11 月 25 日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂(現地開催)

組織委員:加藤聖子(日本産科婦人科学会理事長/九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野教授),水主川純(東京女子医科大学産婦人科学講座産科学分野教授・基幹分野長)

参加者数:58 名

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

委員は岡明(埼玉県立小児医療センター病院病院長),小野稔(東京大学大学院医学系研究科教授・心臓外科),釜菴敏(日本医師会常任理事),永山悦子(毎日新聞社論説委員),松本守雄(慶感義塾大学医学部教授・整形外科学),南砂(読売新聞東京本社常務取締役/調査研究担当),綿田裕孝(順天堂大学大学院医学研究科教授・代謝内分泌内科学)の 7 名で構成されており、公開フォーラムの基本方針,テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。今年度は次のとおり開催した。

・第 12 回日本医学会公開フォーラム企画委員会(5 月 18 日)

第 34 回のテーマ案について検討がなされた。

第 34 回のテーマ:女性医療を取り巻く課題

・第 13 回日本医学会公開フォーラム企画委員会(10 月 19 日)

第 35 回のテーマ案について検討がなされた。

第 35 回のテーマ:糖尿病,肥満症診療の進歩と問題点移植医療の現状と課題

3) 日本医学会公開フォーラム記録

「第 33 回日本医学会公開フォーラム」「第 34 回日本医学会公開フォーラム」の全容を日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」で映像配信した (<https://jams.med.or.jp/>)。また、第 34 回日本医学会公開フォーラム「女性医療を取り巻く課題」の映像配信について、全国の大学院医学系研究科長／大学医学部長・医科大学長宛に周知依頼を発出した。

8. 日本医学会協議会

毎月 1 回、会長・副会長、日本医師会担当副会長・常任理事で定期的を開催している。

9. 日本医学会正副会長会議

2024 年より新たに発足した会議で、日本医学会の会長、副会長で 3 ヶ月に一回程度開催している。第 1 回の会議を 2024 年 1 月 26 日に開催し、各委員会の担当や次年度の会議の予定等について協議を行った。

10. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、日本医学会の委員会の中で最も歴史が古い委員会である。委員長：大江和彦（東京大学大学院医学系研究科教授・医療情報学）、副委員長：南学正臣（東京大学大学院医学系研究科教授・腎臓・内分泌内科学）、委員：安西尚彦（千葉大学大学院医学研究院教授・薬理学）、石川俊平（東京大学大学院医学系研究科教授・衛生学）、今井健（東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・医工情報学）、荻島創一（東北大学高等研究機構未来型医療創成センター教授）、小野木雄三（国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授）、神庭重信（九州大学名誉教授）、久具宏司（国際医療福祉大学成田病院教授）、齊藤光江（順天堂大学大学院医学系研究科教授・乳腺腫瘍学）、坂井建雄（順天堂大学保健医療学部特任教授・理学療法学）、辻省次（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授／東京大学大学院医学系研究科寄附講座特任教授・分子神経学）、森内浩幸（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学）の 12 名と協力会社 2 社により構成されている。第 5 回委員会を 10 月 10 日（火）に開催した。

11. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

遺伝学に関する用語は、医学、教育、社会において広い分野で関係することから、日本医学会としては十分な検討の上、プロセスを踏んでコンセンサスを形成することが重要と考え、医学用語管理委員会の下にワーキンググループを設けて検討を行っている。座長：辻省次（国際医療福祉

大学大学院医療福祉学研究科教授／東京大学大学院医学系研究科寄附講座特任教授・分子神経学), 委員: 柏井聡(愛知淑徳大学非常勤教授・健康医療科学), 久具宏司(国際医療福祉大学成田病院教授), 櫻井晃洋(札幌医科大学医学部教授・遺伝医学), 戸田達史(東京大学大学院医学系研究科教授・神経内科学), 小崎健次郎(慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター教授), 梶屋啓志(理化学研究所バイオリソース研究センター統合情報開発室室長), 森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学)の8名で構成されている。

今年度は2024年1月12日(金)に第13回を開催し, variant, variation, mutation, polymorphism, allele, genotype について検討を行った。

12. 不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ

本ワーキンググループは患者や家族にとって辛い響きである「奇形」という用語を別の言葉に変える事を検討するため, 2019年10月に医学用語管理委員会の下に発足した『『奇形』含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ』であったが, 「奇形」のみならず, 医学用語辞典に含まれる不適切語を検討するため, 2022年9月より名称を変更した。座長: 森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学), 委員: 大植孝治(兵庫医科大学・小児外科), 柏井聡(愛知淑徳大学非常勤教授・健康医療科学部), 久具宏司(国際医療福祉大学成田病院教授), 小崎健次郎(慶應義塾大学臨床遺伝学センター教授), 古庄知己(信州大学医学部教授・遺伝学), 山本哲哉(横浜市立大学大学院医学研究科教授・脳神経外科学), 水野稚香(宮城県立子ども病院部長・整形外科), 彦坂信(国立成育医療研究センター診療部長・形成外科), 丹羽隆介(筑波大学生存ダイナミクス研究センター教授), 梶屋啓志(理化学研究所バイオリソースセンター統合情報開発室長), 三木崇範(香川大学医学部教授・神経機能形態学), 神庭重信(九州大学名誉教授), 武田裕子(順天堂大学大学院医学研究科教授・医学教育学), 門野岳史(聖マリアンナ医科大学主任教授・皮膚科学)の15名で構成されている。病名や疾患名, 置換えが望ましいが検討の余地がある用語, 「奇形」以外で不適切な用語, 不適切な人名の付いた用語等を引き続き検討していく。

13. 用語表記基本指針策定ワーキンググループ

2021年度に創設されたワーキンググループで, 医学用語における用語の表記方法の基本方針を策定することを目的としている。座長: 久具宏司(国際医療福祉大学成田病院教授), 委員: 坂井建雄(順天堂大学保健医療学部特任教授・理学療法学), 今井健(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・医工情報学), 神庭重信(九州大学名誉教授), 森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学), 西嶋佑太郎(京都府立洛南病院), 笹原宏之(早稲田大学社会科学総合学術院教授・社会科学部)の7名で構成されている。10月2日(月)に第2回が開催された。1)漢字に関すること, 2)カタカナに関すること, 3)記号, 区切り文字, 書体, 全般に関することを検討している。

14. 日本医学会分科会用語委員会

2023 年度日本医学会分科会用語委員会は、2024 年 1 月 15 日(月)に web 開催された。

川本めぐみ厚生労働省政策統括官付参事官付国際分類情報管理室室長から「ICD-11 の公的統計への適用に向けて」、今井健東京大学大学院疾患生命工学センター准教授から「LIM による生成系 AI の医学医療での活用における展望と課題」の講演があったほか、各ワーキンググループからの報告、質疑応答等があった。内容については日本医学会ホームページに掲載予定。

15. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は 8 月 25 日(金)に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、藤本豊士(順天堂大学大学院医学系研究科老人性疾患病態・治験研究センター特任教授)、飯野正光(東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構長特別補佐)、中澤徹(東北大学医学部主任教授・眼科学)、武林亨(慶應義塾大学医学部教授・衛生学公衆衛生学)、上田龍三(名古屋大学大学院医学系研究科特任教授・分子細胞免疫学)、坂田泰史(大阪大学大学院医学系研究科教授・循環器内科学)、藤尾圭志(東京大学大学院医学系研究科教授・内科学専攻性体防御腫瘍内科学)、高橋英彦(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科主任教授・精神行動医科学)、成田善孝(がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科長)、森山寛(東京慈恵会医科大学名誉教授)の 10 名が加わった。

結果は、次のとおり医学賞 4 名、医学研究奨励賞 15 名が選考され、11 月 1 日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌(第 152 巻第 10 号)に掲載した。

[2023 年度日本医師会医学賞]

- ・ 神経回路の可視化技術の開発とその応用
岡部繁男／東大・解剖学
- ・ 国民の健康・安全に資する睡眠面からの予防医学研究の推進
植木浩二郎／国立国際医療研究セ・糖尿病代謝
- ・ 難治性眼疾患に対する基礎研究から新規再生医療の開発と実用化
西田幸二／阪大・眼科学

[2023 年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・ RNA 修飾を基準とした生体恒常性維持の解明
小川亜希子／東北大加齢医学研究所・モドミクス医学
- ・ 内分泌因子の破綻に基づくヒト NASH 進展機構の解明
武部貴則／阪大・ゲノム生物学
- ・ 単一核メチローム、トランスクリプトーム解析による孤発性筋萎縮性側索硬化症の病態解明

- 井上浩輔／京大・社会疫学
- ・因果関係に迫る疫学理論の構築とデータ分析
- 鈴木越治／岡山大・疫学
- ・先端ゲノム技術を用いた末梢性 T 細胞性リンパ腫における分子病態と臨床的意義の解明
- 片岡圭亮／慶大・血液・内科学
- ・難治性拡張型心筋症に対する塩基編集を用いた新規治療基盤の構築
- 西山崇比古／慶大・循環器内科学
- ・サルコペニアをはじめとする糖尿病併存症の遺伝的背景の解明とバイオマーカーの探索
- 笹子敬洋／東大・糖尿病・代謝内科学
- ・患者由来オルガノイドを用いた慢性腎臓病の病態解明
- 森 雄太郎／東医歯大・腎臓内科学
- ・関節リウマチの発症に関わる T 細胞受容体の配列パターンの同定
- 石垣和慶／理化学研究所生命医科学研究セ・ヒト免疫遺伝
- ・新規肝臓内免疫スコアの開発と消化器癌症例への臨床的応用
- 今岡祐輝／広島大・消化器・移植外科学
- ・椎間板性疼痛に対する超高純度間葉系幹細胞とソフトバイオマテリアルを用いたリバー
ストランスレーショナルアプローチ
- 山田勝久／北大・脊椎脊髄外科学
- ・花粉症と口腔アレルギー症候群の克服を目指した新規治療戦略
- 亀倉隆太／札医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
- ・in vitro ヒト着床モデルの作製による着床機構の解明
- 田村 功／山口大・産科婦人科学
- ・糖尿病網膜症の慢性化を遮断する治療法の開発
- 福嶋葉子／阪大・眼科学

16. 日本医学会加盟検討委員会

13名の委員により構成。2023年度第1回日本医学会加盟検討委員会を12月8日(金)に開催した。今年度の加盟申請の19学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。本審査は、日本医学会加盟検討委員会報告(2021年6月)に示された審査基準に基づいて行われている。

17. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成23年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長:福嶋義光(信州大学医学部遺伝医学部特任教授), 委員:青野由利(科学ジャーナリスト/毎日新聞客員編集委員), 苛原稔(徳島大学特命教授), 尾崎紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科特任教授), 鎌谷洋一郎(東京大学大学院新

領域創成科学研究科教授・メディカル情報生命専攻複雑形質ゲノム解析分野), 杉浦真弓(名古屋市立大学大学院医学研究科教授・産婦人科学), 高田史男(北里大学大学院医療系研究科教授・臨床遺伝医学), 中村清吾(昭和大学臨床ゲノム研究所所長/大学病院ブレストセンター長/乳腺外科特任教授), 中山智祥(日本大学医学部医学科教授・臨床検査医学分野), 松原洋一(国立成育医療研究センター理事), 山内敏正(東京大学大学院医学系研究科教授・糖尿病・代謝内科)の11名で構成されている。

「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的且つ計画的な推進に関する法律案」が2023年6月16日に施行されたことから今後、この法律の後に作成される基本計画の発布前に日本医学会から提言を出すことになり、提言案作成のために4つのワーキンググループが設置された。

今年度は7月19日(木), 8月17日(木), 9月28日(木), 11月15日(水), 12月19日(火), 2024年2月7日(水)に第28回~第33回まで6回開催され、提言案を作成した。提言案は幹事会、定例評議員会で承認を受けた後、日本医学会・日本医学会連合、日本医師会の連名で各省庁に提出の予定。

18. 日本医学会利益相反委員会

平成22年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成24年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長:土岐祐一郎(大阪大学大学院医学系研究科教授・消化器外科学), 副委員長:寺内康夫(横浜市立大学大学院医学研究科教授・分子内分泌・糖尿病内科学), 委員:石岡千加史(東北大学大学院医学系研究科教授・臨床腫瘍学), 植木浩二郎(国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長), 苅田香苗(杏林大学医学部教授・衛生学公衆衛生学), 寺井崇二(新潟大学大学院医歯学総合研究科教授・消化器内科学), 浅井文和(日本医学ジャーナリスト協会会長/元朝日新聞社編集委員), 小笠原彩子(南北法律事務所弁護士), 小島多香子(東京医科大学国際教育センター長/教授)の10名で構成。

曾根三郎委員長(2023年6月23日まで)の下、第27回委員会を5月19日(金)に開催した。主な議題は、①日本医学会連合の厚労省補助金交付申請に係る利益相反審査等であった。

第28回委員会を5月31日(木)に開催した。主な議題は、①『日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス 2023』案, ②第7回研究倫理教育研修会の開催, ③日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

南学正臣委員長(2024年1月31日まで)の下での第1回委員会を11月8日(木)に開催した。主な議題は、①『日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス 2023』公表, ②第8回日本医学会分科会利益相反会議, ③日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

19. 日本医学会分科会利益相反会議

第8回日本医学会分科会利益相反会議については、2023年度は開催されなかった。

20. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成20年に発足した。委員長：北村聖（東京大学名誉教授／地域医療振興協会顧問）、副委員長：武田裕子（順天堂大学大学院医学研究科教授・医学教育学）、委員：有馬寛（名古屋大学大学院医学系研究科教授・糖尿病・内分泌内科学）、遠藤格（横浜市立大学大学院医学研究科教授・消化器・腫瘍外科学）、木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワークセンター教授）、北川正路（東京慈恵会医科大学国際交流センター課長）、黒沢俊典（特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会データベース事業部次長）、中山健夫（京都大学大学院医学研究科教授・健康情報学）、林和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長）、吉岡俊正（東都大学学長）の10名と、オブザーバー：久保田壮一（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）情報基盤情報部研究成果情報グループ調査役）、吉田幸苗（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課課長）、城井康信（株式会社メテオ調査役）の3名で構成されている。

第28回委員会を、9月14日（木）に開催した。主な議題は、①第7回研究倫理教育研修会報告、②「WPRIM(WHO 西太平洋地域医学情報データベース)/APAME(アジア太平洋医学雑誌編集者会議)2023 年会議(ベトナム・フエ)報告、③ICMJE(医学雑誌編集者国際委員会) Recommendations の2023年5月更新内容、④医学雑誌編集におけるAI使用に関する各編集者団体からの推奨、⑤第12回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第12回シンポジウムの企画、⑥日本医学会利益相反委員会活動報告等であった。

21. 日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・シンポジウム

第12回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第12回シンポジウムは、2024年2月6日（火）に対面開催した。当日の映像および抄録等詳細については、後日、日本医学会ホームページに掲載する予定。

第12回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会に引き続き、シンポジウムは、北村聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長／東京大学名誉教授／地域医療振興協会顧問）の司会の下、下記のプログラムで開催された。

- ・信頼できる医療／健康情報のために YouTube が取り組んでいること／片倉陽子（グーグル合同会社 Head of Healthcare & Public Health YouTube, Japan）
- ・AIと医学雑誌編集／林和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長）
- ・AI 利用の普及に対する医学雑誌編集者団体の対応／中山健夫（京都大学大学院医学研究科教授）
- ・生成 AI による文章生成とその応用例／中村知繁（順天堂大学健康データサイエンス学部助教）

22. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究不正問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で、毎年開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、2020年度、2021年度、2022年度は中止となった。

2023年度は、「研究者としての医の倫理とインテグリティー 新たな課題と対応」をメインテーマに6月1日(木)に無観客収録し、映像を日本医学会ホームページに掲載した。

23. 日本医学会総会あり方委員会

日本医学会総会のあり方について、中・長期的な展望で検討することを目的としている。委員長:高橋雅英(藤田医科大学研究統括監理部特命教授・統括学術プログラムディレクター)、委員:磯博康(国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長)、角田徹(日本医師会副会長)、勝野雅央(名古屋大学大学院医学系研究科教授・神経内科学)、釜范敏(日本医師会常任理事)、荻田香苗(杏林大学医学部教授・衛生学公衆衛生学)、北川雄光(慶應義塾大学医学部教授・外科学)、齊藤光江(順天堂大学医学部教授・乳腺腫瘍学)、坂田泰史(大阪大学大学院医学系研究科教授・循環器内科学)、田中伸哉(北海道大学大学院医学研究院教授・病理学)、中山啓子(東北大学大学院医学系研究科教授・附属創生応用医学研究センター)、細谷紀子(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・放射線分子医学部門)、柳田素子(京都大学大学院医学研究科教授・腎臓内科学)、オブザーバー:澤芳樹(大阪警察病院院長/大阪大学大学院医学系研究科教授・保健学科)の14名で構成されている。第1回委員会を9月4日(月)、第2回委員会を2024年3月5日(火)に開催予定。

24. 再生医療等レジストリ協議会

再生医療等製品の市販後調査・治験等における患者登録システムの効率的な運用を目的として発足した。会の事務局は日本再生医療学会が行う。再生医療製品/臨床研究・臨床試験におけるレジストリ調査のあり方を検討し、実際に調査項目の策定までを行う。全体的なポリシーメイキングを行う再生医療レジストリ検討会と、個々の製品や研究の調査項目の策定を行う再生医療等レジストリ委員会の2つの会議体から成る。日本医学会分科会、PMDA、日本再生医療学会と連携をとりながら進めている。

25. 移植関係学会合同委員会

1992年5月に発足した移植関係学会合同委員会は厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。本年度は第49回委員会を8月9日に書面

決議にて開催し、心臓移植実施施設の認定を行った。また、2024年2月現在、第50回委員会にて成人心臓移植実施施設ならびに腎臓移植実施施設の施設認定について審議中。

・2023年8月9日付(第49回)

移植実施施設認定

心臓移植実施施設(11歳未満の小児):埼玉医科大学国際医療センター

・2024年2月現在審議中(第50回)

成人心臓移植実施施設ならびに腎臓移植実施施設

・報告

腎臓移植実施施設の認定取り下げ

SUBARU 健康保険組合 太田記念病院

26. 出生前検査認証制度等運営委員会

NIPTを実施する非認定施設の増加により、適切なカウンセリングが行われないまま妊婦がNIPTを受検するケースが増えたことが問題視され、厚生労働省より本会に標記委員会の設置を依頼された。2021年6月の臨時評議員会にて承認されている。

第7回委員会を9月20日(水)にした。第8回委員会を2024年3月18日(金)に開催予定。

27. 日本医学会 e-News

1989年より紙媒体で発行していた「日本医学会だより」を2020年度より新たに「日本医学会 e-News」としてホームページに掲載している。5月にNo.7を、10月にNo.8を発行した(綴じ込みの「日本医学会 e-News」を参照)。今後も不定期に発行する予定。

28. 情報発信

日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ(<https://jams.med.or.jp/>)と分科会ホームページをリンクしている。2021年4月1日にリニューアルし、スマートフォンに対応できる形にしている。

29. 会議等の開催数

日本医学会協議会(会長, 副会長)

12回

日本医学会正副会長会議	1回
日本医学会幹事会	1回
日本医学会臨時幹事会	3回
日本医学会定例評議員会	1回
日本医学会臨時評議員会	4回
日本医学会シンポジウム	2回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	0回
日本医学会公開フォーラム	2回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会医学用語管理委員会	1回
遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ	1回
不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループ	0回
用語標記基本指定策定ワーキンググループ	1回
日本医学会分科会用語委員会	1回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	6回
日本医学会利益相反委員会	3回
日本医学会分科会利益相反会議	0回
日本医学雑誌編集者組織委員会	1回
日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）・シンポジウム	1回
研究倫理教育研修会	1回
日本医学会総会あり方委員会	1回
再生医療等レジストリ協議会	0回
移植関係学会合同委員会	2回
出生前検査認証制度等運営委員会	1回
記者会見	1回

30. その他

- 1)「日本医学会分科会一覧」を9月に作成，関係各方面に配付した。
- 2)「2024年日本医学会分科会総会一覧」（オンライン版）を2024年1月に作成した。
- 3)「日本医師会年次報告書－令和5年度－」および「日本医師会事業報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。



開催報告

第90回日本医学会定例評議員会

2023年2月22日(水)に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に鑑み、WEB(zoom)での開催となった。主な決議事項は1. 2023年度事業計画, 2. 2022年度日本医学会加盟学会の件, 3. その他であり、承認をいただいた。日本医学会新規加盟学会は、日本国際保健医療学会の1学会であり、これにより加盟学会は142学会になった。

日本医学会加盟検討委員会

2022年度第1回日本医学会加盟検討委員会を、2022年12月8日(木)に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に鑑み、WEB(zoom)で開催した。加盟申請の21学会についての審査を慎重に行い、その結果を2023年1月6日(金)の日本医学会協議会で門田会長に報告した。

イベント情報

第162回日本医学会シンポジウム

テーマ：「医学教育の在り方を見直す」

会 期：2023年6月3日(土)

組織委員：瀬戸泰之(東京大学医学部附属病院院長)

野田泰子(自治医科大学医学部解剖学教授)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、無観客にて収録し、後日、日本医学会ホームページ(<https://jams.med.or.jp/>)にて映像配信する。

第33回日本医学会公開フォーラム

テーマ：「移植医療の現状と課題」

会 期：2023年6月17日(土)

組織委員：小野 稔(東京大学大学院医学系研究科心臓外科学教授)

有賀 徹(独立行政法人労働者健康安全機構理事長)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、無観客にて収録し、後日、日本医学会ホームページ(<https://jams.med.or.jp/>)にて映像配信する。

医学賞・医学研究奨励賞

2023年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示. 要項は本会にお問い合わせいただきたい. 受付期間は, 5月15日(月)～7月3日(月). 推薦書は, 公示日より日本医師会ホームページ (<https://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる.

日本医学会への加盟申請

2023年度の日本医学会への新規加盟申請は, 5月15日(月)に公示(日本医師会雑誌等)し, 7月31日(月)に締め切る. 申請書は, 公示日より本会ホームページ (<https://jams.med.or.jp/>) からダウンロードできる.



開催報告

医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月25日(金)に開催し、2023年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員並びに特例委員が、今年度の推薦数：医学賞23, 奨励賞33を審査した。

選考の結果、11月1日(水)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名, 奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

<2023年度日本医師会医学賞>

- 神経回路の可視化技術の開発とその応用
岡部繁男 (東大・解剖学)
- 国民の健康・安全に資する睡眠面からの予防医学研究の推進
谷川 武 (順天堂大・公衆衛生学)
- 2型糖尿病の分子病態解明とそれに基づく治療法の開発
植木浩二郎 (国立国際医療研究セ・糖尿病代謝)
- 難治性眼疾患に対する基礎研究から新規再生医療の開発と実用化
西田幸二 (阪大・眼科学)

<2023年度日本医師会医学研究奨励賞>

- RNA修飾を基軸とした生体恒常性維持の解明
小川亜希子 (東北大加齢医学研究所・モドミクス医学)
- 内分泌因子の破綻に基づくヒトNASH進展機構の解明
武部貴則 (阪大・ゲノム生物学)
- 単一核メチローム, トランスクリプトーム解析による孤発性筋萎縮性側索硬化症の病態解明
小池佑佳 (新潟大脳研究所・分子神経疾患資源解析学)
- 機械学習の手法を用いた生活保護受給者への効果的な健康支援アルゴリズムの開発
西岡大輔 (大阪医薬大・公衆衛生学)
- 機械学習と因果推論を用いた次世代の個別化医療戦略「高ベネフィット・アプローチ」の確立
井上浩輔 (京大・社会疫学)
- 因果関係に迫る疫学理論の構築とデータ分析
鈴木越治 (岡山大・疫学)
- 先端ゲノム技術を用いた末梢性T細胞性リンパ腫における分子病態と臨床的意義の解明
片岡圭亮 (慶大・血液・内科学)

次ページへ続く

- 難治性拡張型心筋症に対する塩基編集を用いた新規治療基盤の構築
西山崇比古 (慶大・循環器内科学)
- サルコペニアをはじめとする糖尿病併存症の遺伝的背景の解明とバイオマーカーの探索
笹子敬洋 (東大・糖尿病・代謝内科学)
- 患者由来オルガノイドを用いた慢性腎臓病の病態解明
森雄太郎 (東医歯大・腎臓内科学)
- 関節リウマチの発症に関わるT細胞受容体の配列パターンの同定
石垣和慶 (理化学研究所生命医科学研究セ・ヒト免疫遺伝)
- 新規肝臓内免疫スコアの開発と消化器癌症例への臨床的応用
今岡祐輝 (広島大・消化器・移植外科学)
- 椎間板性疼痛に対する超高純度間葉系幹細胞とソフトバイオマテリアルを用いたリバーstransレーショナルアプローチ
山田勝久 (北大・脊椎脊髄外科学)
- 花粉症と口腔アレルギー症候群の克服を目指した新規治療戦略
亀倉隆太 (札医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
- 糖尿病網膜症の慢性化を遮断する治療法の開発
福島葉子 (阪大・眼科学)

イベント情報

第34回日本医学会公開フォーラム

テーマ：「女性医療を取り巻く課題」

会期：2023年11月25日(土) 13:00～17:05

会場：日本医師会館大講堂

組織委員：加藤 聖子 (日本産科婦人科学会理事長／九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野教授)

水主川 純 (東京女子医科大学産婦人科学講座産科学分野教授・基幹分野長)

市民を対象とした公開フォーラムである。

参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページ参照。

第163回日本医学会シンポジウム

テーマ：「心と脳と体をつなぐ神経免疫」

会期：2023年12月16日(土) 13:00～17:00

会場：日本医師会館大講堂

組織委員：澤 明 (ジョンスホプキンス大学医学部, 公衆衛生学部, 附属病院センターディレクター・教授)

高柳 広 (東京大学大学院医学系研究科免疫学教授)

参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページ参照。